

製品名: NDUFA1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab14496**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	NDUFA1
別名	NADH dehydrogenase [ubiquinone] 1 alpha subcomplex subunit 1 (Complex I-MWFE;CI-MWFE;NADH-ubiquinone oxidoreductase MWFE subunit)
遺伝子 ID	4694.0
SwissProt ID	O15239
免疫原	ヒト NDUFA1 由来の合成ペプチド AA 範囲: 20-100

背景

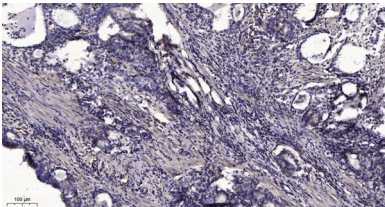
ヒト NDUFA1 遺伝子は、呼吸鎖複合体 I の必須構成要素である NADH からユビキノンの電子伝達を担うタンパク質をコードしてい

ます。N末端疎水性ドメインは、ミトコンドリア内膜を横断する α ヘリックスに折り畳まれる可能性があり、C末端親水性ドメインは複合体Iの球状サブユニットと相互作用することが知られています。高度に保存された2つのドメイン構造は、この特徴がタンパク質機能に重要であり、ミトコンドリア内膜においてNADH: ユビキノン酸化還元酵素複合体のアンカーとして機能する可能性を示唆しています。しかしながら、NDUFA1ペプチドは、複合体Iのプロトン輸送に関与する「疎水性タンパク質」(HP)画分を構成する約31の構成要素の1つです。したがって、NDUFA1ペプチドは、その機能にも関与している可能性があります。[RefSeq提供、2008年7月]、疾患: NDUFA1の欠陥は、複合体Iミトコンドリア呼吸鎖欠損症[MIM:252010]の原因です。複合体I(NADH-ユビキノン酸化還元酵素)は、ミトコンドリア呼吸鎖の最大の複合体であり、40以上のサブユニットを含みます。複合体Iはミトコンドリア内膜に埋め込まれており、一部はマトリックスに突出しています。複合体I欠損は、ミトコンドリア疾患の最も一般的な原因です。呼吸鎖欠損症全体の3分の1を占め、神経疾患から心筋症、肝不全、ミオパシーまで、さまざまな臨床症状の原因となります。、機能: ミトコンドリア膜呼吸鎖NADH脱水素酵素(複合体I)の補助サブユニットであり、触媒作用には関与していないと考えられています。複合体Iは、NADHから呼吸鎖への電子伝達に機能する。この酵素の直接の電子受容体はユビキノンであると考えられている。、類似性: 複合体I NDUFA1サブユニットファミリーに属する。、サブユニット: 複合体Iは45の異なるサブユニットから構成される。、組織特異性: 主に心臓と骨格筋で発現する。、

研究分野

タグと細胞マーカー; 細胞内マーカー; 細胞小器官; ミトコンドリア; シグナル伝達; 代謝; ミトコンドリア; がん; がん代謝; 代謝シグナル伝達経路; エネルギー代謝の統合; 経路とプロセス; ミトコンドリア代謝; ミトコンドリアマーカー; エネルギー伝達経路; エネルギーの統合; 酸化的リン酸化; 複合体I

画像データ



パラフィン包埋ヒト胃腺癌の免疫組織化学分析。1、抗体を1:200に希釈(4°Cで一晩)。2、抗原賦活化にはTris-EDTA、pH9.0を使用。3、二次抗体を1:200に希釈(室温、45分)。